



うまい下手ではなく  
いい仲間ができる



前読売巨人軍監督  
原辰徳

厚木市長

山口貴裕

**市長** 新年明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことお喜び申し上げます。今年も、長年にわたりプロ野球の選手・監督として活躍し、厚木市にゆかりがある原辰徳さんをお招きし、お話を伺いたいと思います。

**厚木の思い出**

**市長** 原さんは、幼少期を市内で過ごされたんですね。  
**原さん** 生まれは福岡県大牟田市で、私が小学2年生に上がる前の春休みに緑ヶ丘に来て、中学1年生までいました。今日も市役所に入った時、皆さんが「お帰りをさい」と言ってくれてありがたいなと思いました。  
**市長** 厚木での思い出はありますか。  
**原さん** 模型が好きだったので模型屋さんがあったとか、父と

ハヤを釣りに相模川に行ったとか、そういう思い出はすごくあります。あと、駅の近くには釣り堀やスケートリンクもありましたよね。私はとにかく野球が好きでね。市営球場は、厚木市民の中では東京ドームですね。あそこで小学5年生ぐらいの時、ホームランを打ったのはすごく覚えてます。隣のプールにもよく行きました。

**スポーツの魅力**

**市長** 今も少年野球の子もたちがプレーしています。原さんの中で厚木はどんなまちですか。  
**原さん** 少年ではあったけれど一番影響を受けたというかわりに、野球や勉強、友達も分かってきたのがこの厚木。大人とまでは言わないにしても自分の世界が広がったという点では、厚木というところは私の原点です。

きっかけは何ですか。  
**原さん** 物心ついたときには父が高校野球の監督をやっていた、母と一緒に、よく試合を見に行きました。当時の厳しい指導を見て嫌とは思わなかったんですね。野球が好きなんだと思っただけそこからです。その後、厚木に来て少年野球チームがあること知り、始めました。そこで出会った友達は今でも付き合っています。

**聖地づくりへ**

**市長** 原さんのお話にもありましたが、私も「一生懸命」を信条に歩んできました。それと、目的を持つ一つのところで努力し成し得る「一所懸命」も大事だと思っています。

**市長** 市内での世界・全国大会の開催や合宿・キャンプ地などの誘致でスポーツが盛んになれば、まちにもぎわいや活力が生まれます。市民の皆様がスポーツ活動を応援するため、聖地づくりに力を注いでいます。「する、見る、支える」の3つの視点で、幅広い競技のトップアスリートや身近に感じるのは、施設整備などの環境づくりが重要で、厚木をスポーツの聖地として盛り上げ、憧れや誇りを抱いてもらえるようにしたいです。原さんはスポーツの持つ力、魅力は何だと思っていますか。

きつかけは何かですか。  
**原さん** 物心ついたときには父が高校野球の監督をやっていた、母と一緒に、よく試合を見に行きました。当時の厳しい指導を見て嫌とは思わなかったんですね。野球が好きなんだと思っただけそこからです。その後、厚木に来て少年野球チームがあること知り、始めました。そこで出会った友達は今でも付き合っています。

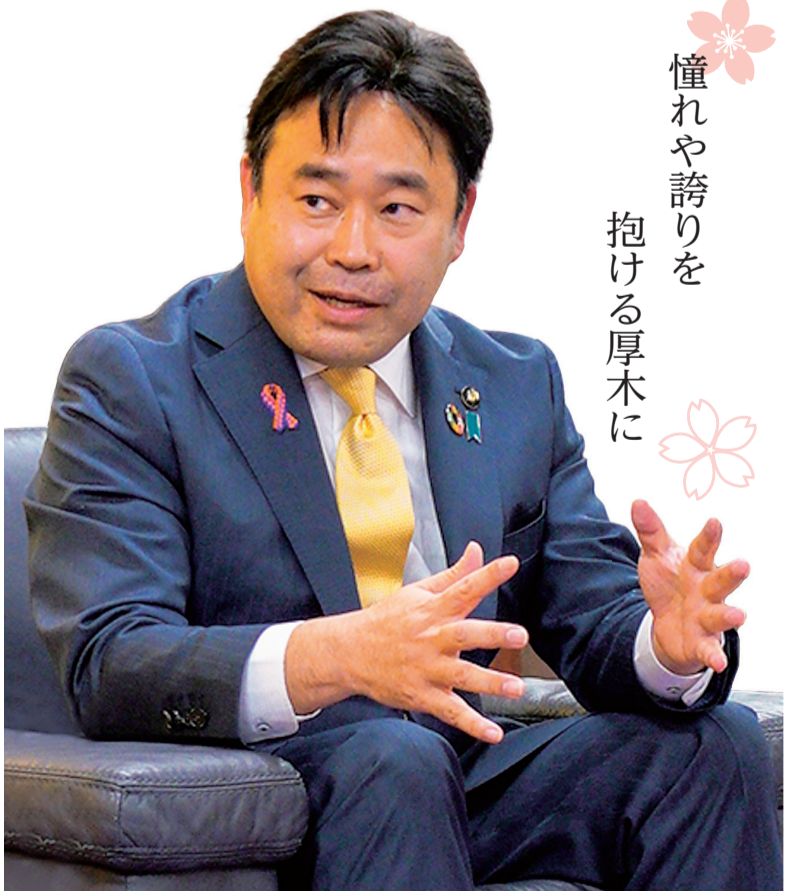
**市長** 刺激を受けて自分を磨き、レベルを高めたんですね。  
**原さん** そうですね。スポーツの良さはいい仲間と出会うこと。どのスポーツもそうだと思いますが、うまい、下手は関係なく、やっぱりいい仲間が重要です。ね。野球というスポーツに出合えば、好きになり、やってきたのは非常に良かったと思います。  
**市長** 私もスポーツを通じた仲間づくりは魅力の一つだと思います。スポーツだけではなく、社会も同じですね。仲間づくりに大事なことは何だと思えますか。  
**原さん** 人に優しくすることです。縦の線と、横の線がつながれば、すごく大きなものになり、いい仲間や友達になると思います。大学では、スポーツだけではなく文化や芸術などを志す人たちとも関わり、いい勉強になったなとも思います。市長も若くしてリーダーになるのは大変なことだと思いますが、自分の中で思っていることはありますか。  
**市長** 小さい頃からあったわけではありませんが、地域に根差した団体活動をしながら、周りの人と意見交換やまちづくりを見る中で、そういう気持ちが少しずつ芽生えてきました。これまでも、市政に「あつき愛」に変えていくこと、誇りある厚木をつくらなければならないと思います。

新春 対談  
スポーツの  
まちへ

**原さん** 「あつき愛」ですか。大事なことだと思います。  
**市長** リーダーとして大切なことは、勇気と努力、決断力、そしてタイミングだと思います。夢を語ることも必要です。夢に向かい市民の皆様、職員の皆さん

んと共に汗をかき、共感してもらうことが大事だと思います。原さんはリーダーとして意識していることはありますか。  
**原さん** いろいろなりリーダーがありますが、監督として大事なのは、野球をよく知ること。それと決断力です。正しい決断力が重要です。少々波風が立つと、動じない心はそこに生まれてくると思います。監督になる前、ヘッドコーチを務めた3年間は非常に勉強になりました。ヘッドコーチは監督と選手の間、中間管理職です。監督と議論できる立場ですが、意見が食い違っても最後は監督の決定。それを選手に伝えるのですが、「私もそう思ったんだけど」な

らって言ったら組織は崩壊します。そういう意味で中間管理職は難しかったですが、その経験が監督として生きました。  
**市長** 原さんは選手や監督としてのプレッシャーをどのようにしてのけてきましたか。  
**原さん** どの世界でも一生懸命やればプレッシャーは感じると思っていますよ。大きさは別にしても目的や挑戦、その二つを持つ人たちは絶対に緊張感があります。でも自分で求めてやっています。自分から、私はプレッシャーが嫌だとか重圧に負けるとかはなかったですね。挑戦している人たちはあつて当たり前。立ち向かうためと思えばプレッシャーとも友達みたいな付き合い方ができると思います。



憧れや誇りを  
抱ける厚木に

**原さん** スポーツは、周りの方や応援している人たちを感動させられるのが一番素晴らしいことだと思います。日本のアスリートはどちらかというと国内に目を向けていたのが、近年、世界に飛び立つ人たちが増えてきました。そこで一番大事なのは、市長も言われる環境づくりだと思えますね。整った環境があれば子どもたちも力を発揮できるでしょう。厚木市が競技や運動を促進する場のスポーツランドのような発信の地である、あるいは、若い人たちがこの地からスタートしていくまちになったらいいなと思います。  
**市長** スポーツを通じた子どもたちの健全育成が大切です。夢を抱き実現していく過程が重要だと思えます。厚木をスポーツの聖地にするためにも、今後原さんにご尽力いただけたらと思います。スポーツをする上で大切なことを教えてください。  
**原さん** 準備をしっかりすることです。練習はもちろん、前の日にしっかりと休み体調を万全にするなど、人事を尽くすのが一番大事だと思います。スポーツに限らず、何事もその場で頑張ろうとしても無理です。目的を持って自分が準備をし、好きなことに取り組む。これが一番だと思います。

**市長** 小・中学校の給食の無償化や多くの市民が期待を寄せる本厚木駅周辺のまちづくりを、しっかりと進めていきます。私も2年目になります。市民の皆様が目線に立ち、寄り添いながら共感し合い、「あつき愛」にあふれたまちづくりに取り組んでいきたいと思います。  
**原さん** 私はまずは少しのんびりさせていただきますが、何か社会に貢献できることがあると思っています。絶対にこれは自分が力になれるということがあれば、貢献活動をやりたいなと思います。何かあれば厚木市でも私の力を使ってください。  
**市長** ありがとうございます。最後に市民の皆様や子どもたちにメッセージをお願いします。  
**原さん** 今回対談して、市長の情熱を感じました。ぜひ、市民の皆さんはこのまちがスポーツ

市内のスポーツ情報を発信  
厚木のスポーツ

スポーツに親しめるよう、市HPでは、市内で開催される大会や参加できるイベントなどの情報を発信しています。競技への参加や選手たちを応援しませんか。

HPはこちら

市公式LINEでも応募できる  
直筆サイン入り色紙をプレゼント

原辰徳さんの直筆サインをプレゼントします。

【対象】市内在住の方10人

市公式LINEの応募フォームまたはハガキに原さんの色紙希望の旨と住所、氏名、電話番号を書き、1月31日(必着)までに〒243-8511広報課☎225-2040へ。抽選。

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

LINEの応募方法は



市役所内で手を振る原さん